

## 富山湾におけるリュウグウノツカイの記録（～2019年3月）

木村 知晴・草間 啓・不破 光大・稲村 修（魚津水族館）

### Record of Slender oarfish *Regalecus russelii* in Toyama Bay, Sea of Japan (Until March 2019).

Tomoharu KIMURA Satoshi KUSAMA

Mitsuhiro FUWA Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

#### はじめに

リュウグウノツカイ *Regalecus russelii* はアカマンボウ目リュウグウノツカイ科に属し、世界最大級の海産硬骨魚類とされる。体は著しく細長く、体長は体高の17～24倍、背鰭前部の6棘は太く著しく延長し、さらに腹鰭は1条で延長し途中に膜質の付属物が3か所以上あることなどで特徴付けられる（林，2013）。東太平洋，西太平洋，大西洋，南アフリカ，東インド洋から知られ，日本近海では北海道から九州，沖縄諸島の沿岸に分布する（瀬能，2018）。

近年，日本海各地においてリュウグウノツカイの捕獲や目撃が相次いでいる。しかし，これまでに新潟県沿岸の記録（本間ら，2011）以外では，捕獲情報や計測記録などはほとんどまとめられていない。

魚津水族館は歴史が古く富山県唯一の水族館であることから，見慣れない魚類などが捕れると連絡を受けることが多い。リュウグウノツカイも同様で，これまでに富山湾（本報告では富山県の沿岸）では，2009年と2010年の4個体（伊串・稲村，2011）の捕獲記録を報告している。今回は，それ以降に富山湾で発見された本種の記録をまとめて報告する。

#### 確認記録

富山湾において，2011年4月1日から2019年3月31日の期間に確認されたリュウグウノツカイは計22個体であった。その内，魚津水族館に搬入して計測したのは15個体で，そのほかに富山県内の各漁業協同組合や報道機関などからの情報提供を受け，写真で確認したものが7個体あった。

以下に各個体の記録を記す。なお，個体番号は富山湾で捕獲された個体の通し番号で，過去に4個体の報告があるので本報告では個体番号5～26となっている。また，尾部の欠損個体が多いことから，全長は吻端から計測できた体の最後端までの長さとした。なお，全長の単位は目視で判断した場合は「m」で，当館に搬入しメジャーで計測した個体は「cm」で記した。

個体番号 5



捕獲年月日：2013年1月18日  
捕獲場所：富山・新潟県境沖  
捕獲者：境市振定置網漁業組合  
捕獲方法：定置網  
全長：267 cm  
状態：ほぼ完全な状態であるが尾鰭は欠損。  
傷口は塞がっている。

個体番号 6



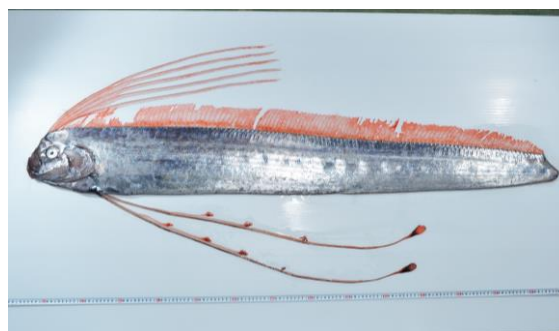
捕獲年月日：2013年7月26日  
捕獲場所：富山・新潟県境沖  
捕獲者：境市振定置網漁業組合  
捕獲方法：定置網  
全長：81 cm  
状態：体はほぼ中央部で切れており、後半部が欠損している。傷口は新鮮であり、捕獲時に切断したと推測される。

個体番号 7



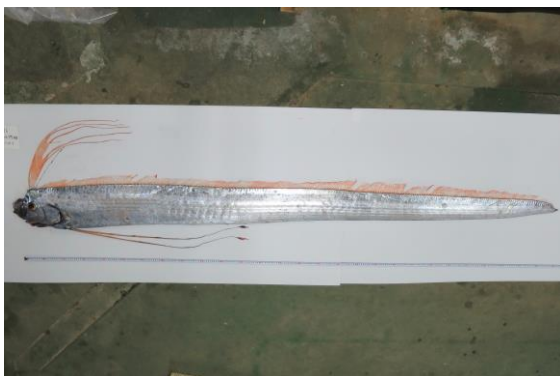
捕獲年月日：2013年12月14日  
捕獲場所：富山市水橋沖  
捕獲者：水橋漁民合同組合  
捕獲方法：定置網  
全長：不明  
備考：水橋漁民合同組合提供の写真で確認。

個体番号 8



捕獲年月日：2014年2月7日  
捕獲場所：富山市水橋沖  
捕獲者：水橋漁民合同組合  
捕獲方法：定置網  
全長：145 cm  
状態：体のほぼ中央部より後半が欠損しており、その傷口は塞がっている。  
備考：生きた状態で魚津水族館の予備水槽に収容した。翌日に死亡を確認。

個体番号 9



発見年月日：2015年2月16日

発見場所：黒部市生地海岸

全長：270 cm

状態：体後端部に欠損があり，その傷口は塞がっている。

備考：海岸打ち上げ。

個体番号 10



捕獲年月日：2015年11月3日

捕獲場所：射水市海老江沖

捕獲者：鷺北漁業部

捕獲方法：定置網

全長：218 cm

状態：体後端部に欠損があり，その傷口は塞がっている。

個体番号 11 (写真なし)

捕獲年月日：2015年12月2日

捕獲場所：富山・新潟県境沖

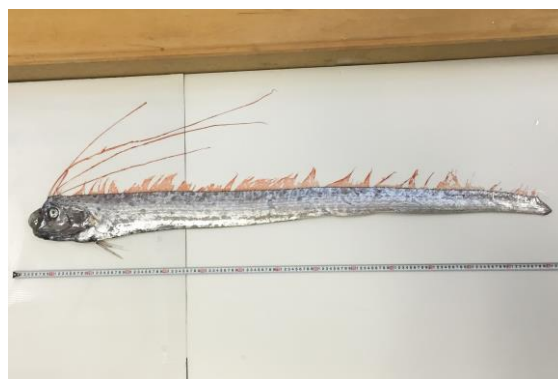
捕獲者：境市振定置網漁業組合

捕獲方法：定置網

全長：不明

備考：魚津漁業協同組合からの情報提供。

個体番号 12



捕獲年月日：2015年12月19日

捕獲場所：射水市新湊沖

捕獲者：有限会社矢野漁業

捕獲方法：定置網

全長：140 cm

状態：体は中央部よりもやや後ろで欠損しており，その傷口は塞がっている。

個体番号 13 (写真なし)

捕獲年月日：2016年1月25日

捕獲場所：射水市新湊沖

捕獲者：不明

捕獲方法：定置網

全長：約2m

備考：新湊漁業協同組合からの情報提供。

個体番号 14



捕獲年月日：2016年11月5日  
捕獲場所：高岡市伏木沖  
捕獲者：有限会社矢野漁業  
捕獲方法：定置網  
全長：198.8 cm  
状態：体後端部に欠損があり，その傷口は塞がっている。

個体番号 15



捕獲年月日：2016年11月15日  
捕獲場所：滑川市三ヶ沖  
捕獲者：魚津水産株式会社  
捕獲方法：定置網  
全長：236 cm  
状態：体後端部に欠損があり，その傷口は塞がっている。

個体番号 16 (写真なし)

捕獲年月日：2017年2月6日  
捕獲場所：富山市水橋沖  
捕獲者：水橋漁民合同組合

捕獲方法：定置網

全長：約3m

備考：水橋漁民合同組合からの情報提供。

個体番号 17



捕獲年月日：2018年10月31日

捕獲場所：滑川市三ヶ沖

捕獲者：魚津水産株式会社

捕獲方法：定置網

全長：267.5 cm

状態：体後端部に欠損があり，その傷口は塞がっている。

個体番号 18



捕獲年月日：2018年12月22日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：尾山水産有限会社

捕獲方法：定置網

全長：不明

備考：富山県農林水産総合技術センター水産研究所・小塚 晃主任研究員から写真と情報提供.

個体番号 19



捕獲年月日：2019年1月19日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：尾山水産有限会社

捕獲方法：定置網

全長：約 2.2m

備考：富山テレビ放送からの画像と情報提供.

個体番号 20



発見年月日：2019年1月19日

発見場所：滑川市吉浦海岸

発見者：上代昭男

全長：436.5 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている.

備考：海岸打ち上げ.

個体番号 21



捕獲年月日：2019年1月28日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：有限会社昭栄漁業

捕獲方法：定置網

全長：394.8 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている.

備考：網揚げ時に胴体中央付近で切断.

個体番号 22



発見年月日：2019年1月30日

発見場所：魚津市経田東町海岸

全長：323 cm

状態：体後端部に欠損があり，その傷口は塞がっている。

備考：海岸打ち上げ。

個体番号 23



捕獲年月日：2019年2月1日

捕獲場所：射水市堀岡沖

捕獲者：新徳漁業有限会社

捕獲方法：定置網

全長：301.8 cm

状態：体後端部に欠損があり，その傷口は塞がっている。

個体番号 24



捕獲年月日：2019年2月1日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：尾山水産有限会社

捕獲方法：定置網

全長：約3.2m

備考：新湊漁業協同組合からの情報提供と

新湊鮮魚センターからの写真提供。

個体番号 25



捕獲年月日：2019年2月21日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：尾山水産有限会社

捕獲方法：定置網

全長：291.3 cm

状態：体後端部に欠損があり，その傷口は塞がっている。

備考：胃内容物はほとんど未消化のツノナシオキアミのみで，大量にあった。

個体番号 26



捕獲年月日：2019年2月26日

捕獲場所：魚津市三ヶ沖

捕獲者：魚津水産株式会社

捕獲方法：定置網

全長：223.9 cm

状態：体後半部（推定1/3程度）が欠損している。その傷口は新鮮であり、網揚げ時に切れたものと推測される。

備考：生きた状態で魚津水族館の「波の水槽」に搬入するが、約6時間半後に死亡。

### まとめ

2019年3月末時点での富山湾におけるリュウグウノツカイの記録は、2009年12月から2010年2月に捕獲された4個体と合わせて26個体となった（表1）。

富山湾における捕獲数を月ごとにまとめると、ほとんどの個体が11月から2月に確認されており、6月を中心に採捕されている新潟県沿岸（本間ら、2011）とは異なる結果であった。富山湾において最も多く確認された月は2月で、次いで1月、12月の順であり、それ以外の月では7月と10月に各1個体が記録されたのみであった（図1）。このことから、富山湾におけるリュウグウノツカイは10月から2月頃が一つのシーズンと考えられた。そこで捕獲数を比較す

る際には1年単位ではなく、10月～翌年3月までを考慮した年度単位の方が適していると考えて富山湾での確認記録を年度別に見ると、最も多く確認されたのは2018年度の10個体であり、2010年度・2011年度・2017年度には確認されなかった（図2）。

捕獲方法としては、定置網で捕獲された個体が22個体で、海岸に打ち上げられた個体が4個体であった。定置網では高岡市伏木沖から富山・新潟県境沖までの範囲で捕獲されたが、氷見市沖では確認されなかった。また、海岸に打ち上げられた個体は滑川市吉浦から黒部市荒俣の海岸で確認され、富山市以西および入善町以東では確認されなかった（図3）。

リュウグウノツカイの成魚の尾部は著しく切れやすく、僅かな力をかけただけで簡単に切断することが知られている（瀬能、2018）。当館に搬入して計測したリュウグウノツカイは、全ての個体で尾部の一部あるいは大部分が欠損していた。欠損の程度は、推定される全長に対して1割未満の欠損が8個体、2～4割の欠損が5個体、約5割欠損が2個体であった。欠損部の傷口が新鮮であった2個体は捕獲時に切れたと推定されたが、残りの13個体は傷口がほぼ塞がっており、捕獲されるよりもかなり前に切れていたと考えられた。実際に、当館に生きたまま搬入された2個体（個体番号8、26）はいずれも尾部の大部分が欠損していたが、当館の水槽内でしばらく遊泳する様子が観察された（図4、図5）。特に個体番号8は体の5割ほどを欠損していたが、傷口は綺麗に塞がっており（図6）、リュウグウノツカイは体の後半部を失っても生存できることが確認された。

このように尾鰭まで完全な状態で残っている個体がおらず、全ての個体で正確な全長は不明であった。そのため各個体の大きさの比較検討はできなかったが、測定された全長は最大で 436.5 cm, 最小は 81 cm であった。最小の個体は体中央部付近で切断されていたので、実際には 150 cm ほどはあったと推測される。測定した全長の頻度分布は 2~3 m の個体が最も多かった (図 7)。今後、各個体の大きさを比較する際には吻端から総排泄孔までの長さ (肛門前長) と体高を基準として、全長を補正する必要があると考えられる。

リュウグウノツカイの食性について、瀬能 (2018) は動物プランクトンを吸引して食べるとしている。また、鳥取県の海岸に漂着したリュウグウノツカイがオキアミ類を嘔吐した記録が 2 例ある (川上ら, 2004 ; 川上・一澤, 2010)。さらに、富山湾で確認された個体番号 3 のリュウグウノツカイの胃からはツノナシオキアミが確認されている (伊串・稲村, 2011)。今回、胃内容物を調査した 12 個体のなかで 11 個体は空胃であったが、1 個体 (個体番号 25) から大量のツノナシオキアミが確認され (図 8)、ツノナシオキアミを主食としている可能性が示された。

今後もリュウグウノツカイに関する情報を蓄積し、生態の解明に努めたい。

### 謝辞

捕獲したリュウグウノツカイを提供して頂いた新湊漁業協同組合、魚津漁業協同組合、水橋漁民合同組合の皆様、並びに海岸に打ち上げられているリュウグウノツカイの情報を魚津水族館に連絡して頂いた皆様

に御礼申し上げます。また、リュウグウノツカイの写真を提供して頂いた富山テレビ放送・鷺北漁業部・新湊鮮魚センター・富山県農林水産総合技術センター水産研究所の皆様にご感謝申し上げます。最後に、リュウグウノツカイの運搬や搬入、計測を手伝っていただいた魚津水族館職員の皆様にご深謝する。

### 引用文献

- 林 公義. 2013. リュウグウノツカイ科 解説, 中坊徹次 編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 480. 東海大学出版会, 神奈川.
- 本間義治・箕輪一博・中村幸弘・青柳 彰・野村卓之. 2011. 新潟・佐渡沿岸と沖合におけるアカマンボウ目 (紐体類) 魚類の漂着・採捕記録再調. ホシザキグリーン財団研究報告第 14 号, 31-41.
- 伊串祐紀・稲村 修. 2010. 富山湾で確認されたリュウグウノツカイ. 魚津水族館年報 20 号, 59-60.
- 川上 靖・平尾和幸・清末幸久. 2004. 鳥取県沿岸における漂着動物の記録 (2002 年 4 月~2003 年 12 月). 鳥取県立博物館研究報告第 41 号, 1-6.
- 川上 靖・一澤 圭. 2010. 鳥取県沿岸に漂着した大型海洋動物 (2008 年~2009 年) とウミガメ類の産卵記録. 鳥取県立博物館研究報告第 47 号, 83-86.
- 瀬能 宏. 2018. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 524pp. 小学館, 東京.



表 1. リュウグウノツカイの記録一覧

個体番号	捕獲日	確認場所	全長
1	2009.12.15	黒部市荒俣 海岸打ち上げ	396cm
2	2010.1.19	高岡市雨晴沖 定置網	335cm
3	2010.2.5	入善町飯野沖 定置網	227cm
4	2010.2.8	入善町飯野沖 定置網	428cm
5	2013.1.18	富山・新潟県境沖 定置網	267cm
6	2013.7.26	富山・新潟県境沖 定置網	81cm
7	2013.12.14	富山市水橋沖 定置網	不明
8	2014.2.7	富山市水橋沖 定置網	145cm
9	2015.2.16	黒部市生地 海岸打ち上げ	270cm
10	2015.11.3	射水市海老江沖 定置網	218cm
11	2015.12.2	富山・新潟県境沖 定置網	不明
12	2015.12.19	射水市新湊沖 定置網	140cm
13	2016.1.25	射水市新湊沖 定置網	約2m
14	2016.11.5	高岡市伏木沖 定置網	198.8cm
15	2016.11.15	滑川市三ヶ沖 定置網	236cm
16	2017.2.6	富山市水橋沖 定置網	約3m
17	2018.10.31	滑川市三ヶ沖 定置網	267.5cm
18	2018.12.22	高岡市伏木沖 定置網	不明
19	2019.1.19	高岡市伏木沖 定置網	約2.2m
20	2019.1.19	滑川市吉浦 海岸打ち上げ	436.5cm
21	2019.1.28	高岡市伏木沖 定置網	394.8cm
22	2019.1.30	魚津市経田東町 海岸打ち上げ	323cm
23	2019.2.1	射水市堀岡沖 定置網	301.8cm
24	2019.2.1	高岡市伏木沖 定置網	約3.2m
25	2019.2.21	高岡市伏木沖 定置網	291.3cm
26	2019.2.26	魚津市三ヶ沖 定置網	223.9cm

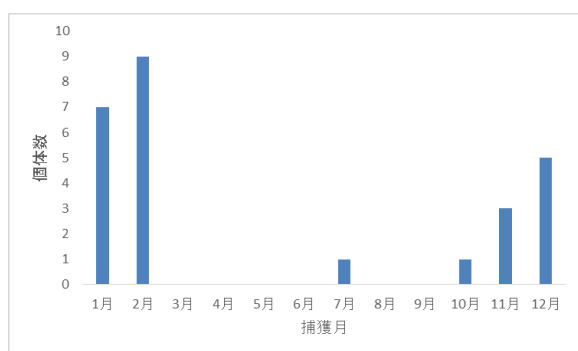


図 1 月別の捕獲記録

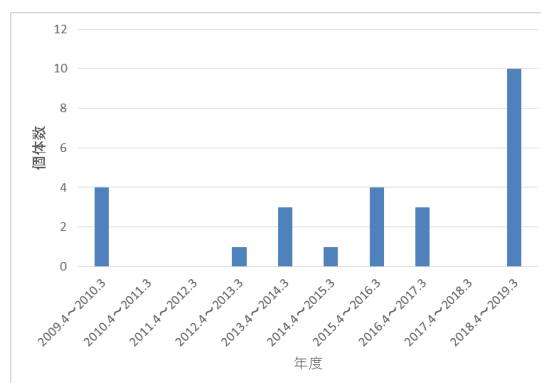


図 2 年度別捕獲記録



図3 リュウグウノツカイ確認地点  
数字は個体番号  
○：定置網  
□：海岸に打ち上げ



図5 「波の水槽」を遊泳する個体番号26



図6 個体番号8の尾部末端



図4 輸送途中の個体番号8

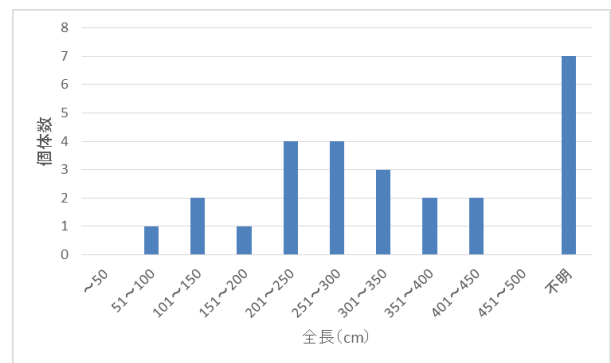


図7 全長の頻度分布



図8 個体番号 25 が食べていたツノナシオキアミ (一部)

## 魚津水族博物館年報 第 29 号

ANNUAL REPORT OF AQUARIUM No.29

2020 年 8 月 編集

### 編集／魚津水族博物館

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <http://uozu-aquarium.jp>

E-mail [suizoku@city.uozu.toyama.jp](mailto:suizoku@city.uozu.toyama.jp)